

2020年10月吉日

イムス東京葛飾総合病院  
渡辺 大介 殿

一般社団法人日本脳卒中学会  
理事長 宮本 享



## ～機械的血栓回収療法を必要とする患者を常時受け入れる 体制の整備について～

一般社団法人日本脳卒中学会では「24時間365日（以下24H/7D）脳卒中患者を受け入れ、急性期脳卒中診療担当医師が、患者搬入後可及的速やかに診療（rt-PA 静注療法を含む）を開始できる一次脳卒中センター（PSC）」の認定事業を行い、現在PSC 974施設と6つのPSCネットワークが認定されています。

なお、PSCの認定要件として「機械的血栓回収療法が実施出来ることが望ましい。実施できない場合には、同療法が常時施行可能な脳卒中センターとの間で、その適応となる患者の緊急転送に関する手順書を有する。」ことが必要とされています。

PSC施設を対象として施行した機械的血栓回収療法の実施体制調査や診療実績から、機械的血栓回収療法を常時（24H/7D）実施されている貴施設には、機械的血栓回収療法を実施できない施設から機械的血栓回収療法を必要とする患者を常時受け入れる体制の整備すなわち「地域においてコアとなるPSC施設（PSCコア施設）」としての活動をお願いしたいと思います。

2024年度からは医師に対する時間外労働の上限規制が開始されますので、24H/7Dの実施体制に関しては、医師の働き方改革に関する上記規制に十分適応できる体制をひきつづき整備していただきますようお願い申し上げます。

なお、「地域においてコアとなるPSC施設」としての活動委嘱は2020年11月1日から2021年3月末日までの期間を対象としており、診療実態年次調査（年次報告）（毎年1～12月実績）をもとに見直し、年度ごとに更新する予定です。

2021年春には脳卒中・循環器病対策基本法に基づき今後各都道府県における計画が策定されていく見込みであり、それと連動する形で「脳卒中と循環器病克服第2次5か年計画」が実施され、様々な整備が進んでいく予定です。